

サンケイ化学 農薬登録情報

カーメックス顆粒水和剤

DCMU 水和剤

登録番号：農林水産省登録第 23433 号（登録会社：丸和バイオケミカル株式会社）

有効成分：DCMU・・・80.0%

毒性：普通物（毒物、劇物でないものを指している通称）

販売エリア：鹿児島県

適用拡大登録取得のお知らせ

弊社取扱い商品「カーメックス顆粒水和剤」は平成 31 年 2 月 27 日付で下記の内容で適用拡大になりました。

【適用病害虫の範囲または使用方法変更の内容】

- ・作物名「水田作物（水田畦畔）」の使用時期「雑草発生前」の希釈水量を「70～300L/10a」から「25～300L/10a」に変更する。
- ・作物名「さとうきび（春植又は夏植）」、「さとうきび（株出）」、「飼料用さとうきび（春植又は夏植）」、及び「飼料用さとうきび（株出）」の使用時期「雑草生育期（草丈 15cm 以下）但し、収穫 90 日前まで」を「雑草生育期 但し、収穫 90 日前まで」に変更する。

【適用病害虫名および使用方法】

次ページに記す。

【注意事項の変更について】

次ページに記す。

なお、使用の際は商品に貼付されているラベルを参照してください。



サンケイ化学株式会社

本

社 〒891-0122 鹿児島市南栄二丁目9番地

TEL:(099)268-7588

【適用病害虫名および使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数		
さとうきび (春植または夏植)	—	一年生雑草	植付覆土後 (雑草発生前)	100~150g /10a	100L/10a	1回	全面土壌散布	2回以内 (土壌散布は1回以内)		
		一年生及び 多年生広葉雑草	雑草生育期 但し収穫90 日前まで			2回以内	雑草茎葉散布			
一年生雑草		萌芽前(雑草 発生前)	1回			全面土壌散布				
一年生及び 多年生広葉雑草		雑草生育期 但し収穫90 日前まで	2回以内			雑草茎葉散布				
パイナップル		水田畦畔	一年生雑草	植付直後 (雑草発生前)		150~200g /10a	25~300L/10a	1回	全面土壌散布	1回
水田作物 (水田畦畔)			雑草発生前	雑草発生始 期~発生揃 期		150~300g /10a			70~100L/10a	
			一年生雑草				植付覆土後 (雑草発生前)		100~150g /10a	
飼料用さとうき び(春植または夏植)		—	一年生及び 多年生広葉雑草	雑草生育期 但し収穫90 日前まで		100~150g /10a	100L/10a	1回		雑草茎葉散布
飼料用さとうき び(株出)	一年生雑草		植付覆土後 (雑草発生前)	雑草生育期 但し収穫90 日前まで	全面土壌散布					
	一年生及び 多年生広葉雑草		雑草茎葉散布							
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、 道路、運動場、宅地、のり 面、鉄道等		一年生雑草	雑草発生前	150	100~200L/10a			3回以内	植栽地を除く 樹木等の周辺 地に全面土壌 散布
		コケ類	コケ類生育期	200~400g /10a	25~100L/10a	植栽地を除く 樹木等の周辺 地に雑草茎葉 散布または全 面土壌散布				

【使用上の注意事項の変更等】(変更部分は太字下線で表示)

・変更後

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 雑草茎葉散布の場合は、雑草の大きさや密度に応じて、散布液量を適宜増減し、茎葉が十分濡れるように散布すること。
- (3) 雑草茎葉散布の場合は、雑草の草丈が **15cm** 以下の時期に散布すること。尚、気温の高い時期 (20℃以上) の散布が効果的である。
- (4) 散布液調製後は、そのまま放置せず、できるだけ速やかに散布すること。
- (5) 植付覆土後に使用する場合は、覆土はできるだけ細かく砕いた土を用い、均一厚めに行うこと。
- (6) 砂質で水はけの良い圃場や、激しい降雨の予想される場合は、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。

- (7) 作物の茎葉にかからないように注意して散布すること。
- (8) 希釈水量 50L/10a 以下で散布する場合は、少量散布用ノズルを用いて、雑草の葉面又は土壤に均一に散布すること。
- (9) 樹木等のコケ類に希釈水量 50L/10a 以下で使用する際は展着剤を加用すること。
- (10) 水田畦畔に使用する場合は、下記の事項に注意すること。
- ① 農作物(水稻)に接近して散布するので、散布液が飛散して農作物にかからないように十分注意すること。
 - ② 塗り畦に使用する場合、畦塗り直後で畦が濡れているときは、水田に流入して薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
 - ③ 散布液が水田に流入するおそれがあるところでは使用しないこと。とくに透水性の大きな畦畔、砂質土では完全に除草すると、畦が崩れたり、散布液が水田に流入し、水稻に薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
 - ④ 翌年に移動する畦、又は崩して水田にする畦には使用しないこと。
 - ⑤ 雑草発生揃期に使用する際は展着剤を使用すること。
- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようすること。
- (12) 使用後の容器や散布器具は必ず水で十分洗っておくこと。
- (13) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (14) 公園、堤とうで使用する場合、特に以下のことに注意すること。
- ① 激しい降雨の予想される場合は使用を避けること。
 - ② 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって、有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
 - ③ 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。